

けあとも

発行 株式会社
ケアサービスとも
平成30年10月

クイックレーザーの導入

開設当初の設備・備品について現在も使用している、車椅子の方等の立ち上がり補助する目的で、福祉用具の会社の方からクイックレーザーという器械を紹介されました。

目的として介護職員の腰痛予防とご利用者の安定した立位や座位の保持という事があり、当面デモンストレーションとして導入することにしました。

実際に使ってみると、(ホームページに動画があります)職員の腰痛予防に関してはご利用者を抱えなくて済むという点では大きな効果があります。さらにご利用者はクイックレーザーで安定した態勢がとれるので安心できるという点で高い評価があり、一方でベルトを掛けたりする手間という点ではやむを得ない部分があります。また、ベルトを掛けながらご利用者とのコミュニケーションが図れるという点で手間のかかる半面の利点もあり、当社ではその後10年にわたって使い続けています。

最近では老朽化してきているので、メンテナン

スの部分で課題が生まれてはいますが介護職の腰痛予防に関しては、必需品といってもいいくらい明確なメリットがあると感じています。



膝あての部分と背中へのベルトと手で持つバーの3点で支えています。

開設当初のご利用者・職員

開設当初は毎日の食事の献立もなく「今日のお昼は何にしようか」という声かけから始まりメニューが決まると、必要な食材の買い出しに出かけていました。

調理は施設内のキッチンで担当者が調理をし、野菜を切る音、食材を煮込む匂も室内に伝わって来て、ホールにいるご利用者・職員にはそれも楽しみの一つでした。

お昼が終わると今度はおやつとの相談です。午後の時間はおやつを買い出しに行くこともあるし、みんなでドライブがてらに出かけて、お茶を飲んでくることもありました。

ご利用者未帰宅事件

そんな時に事件は起きました。ある日の午後、みんなでお茶を飲みに行こうという話になり、車2台に分乗して三郷のショッピングセンターに出かけて、お茶を飲んで帰って来たのですが、ともの家についてから一人のご利用者が見当たらないということに気が付きました。

往路で一緒に乗っていた職員は帰りに別のもう一台の車に乗ったものと思い込み点検をしながら帰って来てしまったのでした。

それから近所の捜索や三郷まで戻ったの捜索、ご家族や警察への連らく等大騒ぎをしましたが見つからず、夜になって息子さんとももの家に駆けつけてくれて事情を説明した後、息子さんがやおら携帯電話を取り出し、どこかへ電話をかけていました。電話を切った後に言った一言にその場にいたみんながびっくりしました。

その時に息子さんは「母親はうちに戻っているよ」と言ったのでした。その場にいた職員は「様にびっくりして「うそでしょう」というと「今、家に電話したら本人が、電話に出たから間違いない」とのことでした。

半信半疑で千住のご利用者宅に駆けつけてみると確かにご本人がお宅にいらっしやいました。その時点で行方不明という件は一件落着となったわけですが、解らないのが、手持ちのお金も

なく、三郷のショッピングセンターからどうやって千住柳原の自宅まで帰ったのかということです。

ご本人に聞いても良く解らない答えしか得られず、何らかの形で三郷から最寄り駅に行き、そこから北千住迄電車に乗って、北千住駅からは徒歩10分で、住み慣れた自宅迄帰ったと考えると、どうやって電車に乗ったのかということはいまだに謎のままです。今から10年も前の話です。



平成20年冬頃の
とももの家でのご利用
者と海老根久美
子と。

訪問介護で敬老の日記念品

9月17日の敬老の日に訪問介護事業所ではご利用者に手作りの記念品をお届けしました。今回の取り組みは「デイサービスや他の介護施設ではその日にご利用者に何か記念品をプレゼントしたりしていませんが、訪問介護事業所ではないんですか?」という新入職員の発案で、「そういうえば訪問事業所ではやってないよね」ということから何

か気持ちだからということで作りの、ポケットティッシュケースを作って贈ろうということになりました。



千代紙(折り紙)をたたんで両端をリボンで結んだものです。真ん中からティッシュが取り出せます。

「あだち脳活フェスタ」に参加

9月2日西新井アリオで開催された「足立脳活フェスタ」にとももの家のご利用者の方が参加して



フラダンスの鑑賞やアリオ内で食事したりして利用者さんともども楽しんできました。

GOODJOB賞

訪問介護 鈴木京子さん

今年5月に就職した鈴木京子さんから9月17日の敬老の日に合わせて、ご利用者様に何かプレゼントをしませんかとの提案があり、訪問介護事業所で検討してみました。

これまでの訪問介護事業所では、そういう発想そのものが無かったことに気が付きました。

今回、事業所として新たな気づきにつながり実施した結果ご利用者・ご家族からも好評であったので、今後も継続していくことを考えています。今回のように積極的に提案してもらえことは事業所にとっても、ご利用者にとっても新たな展開につながることで大変有意義なことであり、鈴木さんに賞を贈ります。

音楽療法実践者

今回総務の井上恵吾さんの推薦によりその実践者である岡崎さん・とも、良、あおい、GHの職員さんと、自らも実践者として参加しながらご利用者の変化を注視して推薦してくれた井上さんに贈ります。継続的な実践からご利用者の変化にも注目して今後も取り組みを継続していくことで、当社の介護事業の重要な取組みの一つとしてやっていけるようにしたいと考えます。